

第7回アジア・スマートシティ会議開催

～海外の都市開発に関する情報・人が集まる「マーケットプレイス」～

横浜市では、公民連携による国際技術協力事業（Y-PORT 事業）を推進し、市内企業の海外展開や新興国諸都市の都市課題解決支援を進めています。その一環として、アジア新興国諸都市の代表者や、企業・国際機関等の有識者が一堂に会し、経済成長と良好な都市環境が両立する持続可能な都市づくりの実現に向けた議論を行う国際会議「アジア・スマートシティ会議」を主催しています。

第7回目となる今年の会議は、**世界銀行東京開発ラーニングセンター及びアジア開発銀行研究所と初めて合同で開催し、アジアを中心に約30都市**（10月24日現在）が参加します。

第7回アジア・スマートシティ会議概要（平成30年11月13日（火）～15日（木））

【主催】横浜市

【共同運営者】世界銀行東京開発ラーニングセンター、アジア開発銀行研究所

【会場】ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

【テーマ】共創による革新に向けた「マーケットプレイス」

【参加予定者】**海外都市**：セブ（フィリピン）、ダナン（ベトナム）、バンコク（タイ）などアジア太平洋地域を中心に約30都市

国・関係機関：外務省、環境省、国土交通省、世界銀行、アジア開発銀行、国際協力機構（JICA）、地球環境戦略研究機関（IGES）、世界資源研究所（WRI）等

企業等：一般社団法人 YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE など国内外の企業

【プログラム】

日付	内容
11/13 (火)	<p>■市内視察（新市庁舎、北部第二水再生センター、北部汚泥資源化センター、金沢焼却工場）</p> <p>■世界銀行レセプション（18：00～）</p>
11/14 (水)	<p>■イントロダクション（9：15～9：45）</p> <p>■分科会（午前と午後に4つずつ、計8つの分科会を開催）</p> <p>午前（10：00～12：30）：①水・廃棄物、②交通、③省エネルギー、④防災レジリエンス</p> <p>午後（14：00～16：30）：⑤スマートな都市インフラの提供、⑥ビッグデータ・オープンデータの活用、⑦製造業と産業の革新、⑧市民参加</p> <p>※その他、ネットワーキングランチ（12：30～14：00）、レセプション（18：00～）を予定</p>
11/15 (木)	<p>■パネルディスカッション（9：30～12：00）</p> <p>セッション①（包括的な都市開発）、セッション②（革新的な技術）</p> <p>※ネットワーキングランチ（12：30～14：00）</p> <p>■全体会（14：00～17：00）</p> <p>主催者挨拶：横浜市長 林文子</p> <p>基調講演、ラウンドテーブルセッション（パネルディスカッション）</p> <p>第7回アジア・スマートシティ会議宣言</p>

【併催会議等】①横浜インフォ・マーケット（11月14日午前・午後、11月15日午前）

②ビジネスフォーラム「企業と自治体が担う、SDGsで創る持続可能な都市」（11月14日午前）

③ヨコハマユースイVENT 2018（11月14日午後）

《第7回アジア・スマートシティ会議のポイント》

① SDGs など国際社会の目標達成に向けた都市間連携の重要性について、横浜から世界に発信

- 2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）は、今や国際社会の共通目標として広く認知されています。この目標の実現に向けて、都市が果たすべき役割への期待はますます大きくなっています。
- 本年6月にSDGs未来都市として選定された横浜が主催するアジア・スマートシティ会議は、世界の経済成長の中心であるアジアの主要都市が集まる会議であり、国連機関、世界銀行やアジア開発銀行の幹部を招き、議論することで、目標達成に向けて更なる歩みを進めます。
- アジア地域におけるスマートな都市開発のプロジェクト創出を目指し、都市課題、ソリューション、ファイナンス等をセットで議論し、その結果を「横浜宣言」としてとりまとめ、横浜から世界に発信していきます。

② 国際機関との密接な連携の下に開催し、質的・量的に拡大

- 今回は、世界銀行東京開発ラーニングセンターやアジア開発銀行研究所のサポートを得ることで、招へい都市数の増加や、分科会の拡大、多様なスピーカーの確保など、会議コンテンツの拡充を図っています。
- 視察から始まり、分科会、全体会へとつながる3日間の国際会議として一体的に運営します。

③ 「マーケットプレイス」の構築に向けて、企業との連携を強化

- 併催イベントとして開催する「横浜インフォ・マーケット」では、横浜の技術・ノウハウをアピールします。また、市内企業と海外都市・企業とのネットワーキングの機会を提供します。
- 合わせて、日経BP社が開催するビジネスフォーラム「企業と自治体が担う、SDGsで創る持続可能な都市」との連携により、SDGsに関心を持つ企業への訴求力向上を図っています。

【SDGs未来都市について】

環境モデル都市、環境未来都市として進めてきた横浜市の先進的なまちづくりは、国内外から高い評価を受けてきました。世界が合意したSDGsを踏まえ、環境未来都市を環境・経済・社会問題の同時解決とグローバルパートナーシップの視点からさらに発展させ、「SDGs未来都市・横浜」として進化させることにチャレンジしていきます。

【第6回（昨年度）アジア・スマートシティ会議の様子】



取材申込方法

取材を希望される際は、11月9日（金）までに、以下のEメールアドレスあてに、
①貴社名、②代表者お名前、③人数、④撮影の種類（例：動画撮影、静止画撮影）、
⑤取材を希望されるイベント、について御連絡ください。
取材申込みEメールアドレス：ki-ascc@city.yokohama.jp
※会議当日は、ホテル3階ボールルーム前の受付まで直接お越しください。

お問合せ先

会議全般に関すること 国際局国際協力課国際技術協力担当課長 野上和義 Tel 045 - 671 - 4706
SDGs未来都市に関すること 温暖化対策統括本部環境未来都市推進課担当課長 大蔭直子 Tel 045 - 671 - 2477

第7回アジア・スマートシティ会議 プログラム概要

2018年11月13日-15日

横浜市



主催

- 主催：横浜市
- 共同運営：東京開発ラーニングセンター（世界銀行グループ）、アジア開発銀行研究所



後援

内閣府、財務省、外務省、環境省、公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）、JICA 横浜、横浜市立大学

全体テーマ

共創による革新に向けた「マーケットプレイス」
～スマートシティ・プロジェクトの創出と都市の創造的な変革への挑戦～

背景／ビジョン

私たちは「スマートシティ開発」を持続可能な都市づくりであると考えています。私たちの目指すスマートシティ開発とは、バランスの取れた持続可能な開発を推進し、官民両セクター間の連携によって生み出された様々な革新的技術を活用することにより、市民の生活の質を向上させるまちづくりです。

これまで、国際社会の様々な場面で、「スマートシティ」に関する議論が行われてきましたが、こうした議論の積み重ねを経て、今、我々に求められているのは、具体的なアクションです。

アジア・スマートシティ会議（ASCC）は、アジアを代表する都市のリーダー、国際機関、学術機関、民間企業の代表者らが一堂に会する国際会議であり、アジアにおけるスマートな都市開発に向けた情報のハブ構築を目指しています。この会議では、各都市のリーダーから提示される都市課題や成長へのビジョン、企業や学術機関による革新的ソリューションの提案、公民連携を資金面で支援する国際機関の施策や、世界の様々なベストプラクティスが共有されます。

第7回アジア・スマートシティ会議は、世界銀行、アジア開発銀行研究所との連携により11月13日から15日まで、横浜市で開催されます。7年目を迎える今年のテーマは、「共創による革新に向けた『マーケットプレイス』」です。2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）を達成するために国際社会が取り組む中、日本政府から「SDGs 未来都市」として選定され、目標達成に向けて取り組んでいる横浜市が同会議を主催します。

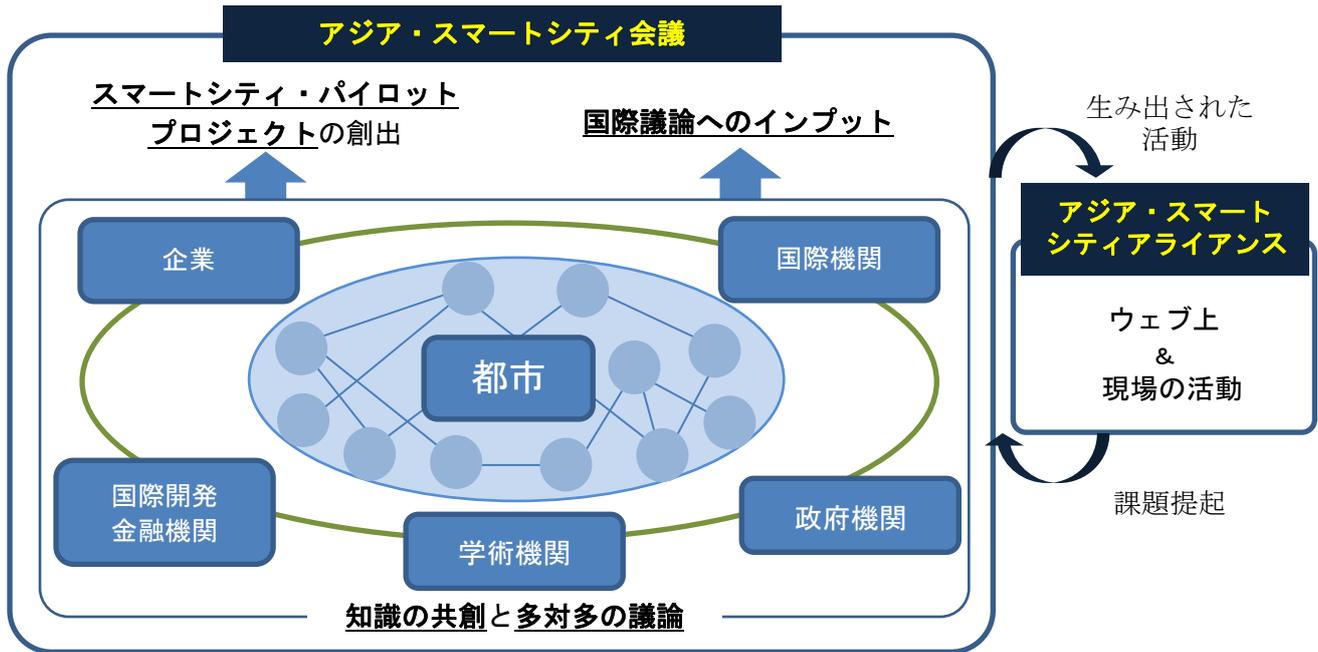
排水・廃棄物処理、省エネ、低炭素交通システムなどの根幹的な都市課題に加えて、AIをはじめとした新たなテクノロジーが都市に与えるインパクトについて、都市課題とソリューションを一体的に議論していきます。ASCCでは、事業分野の垣根を越えた包括的な議論や、多様な参加者のネットワーキングの場を提供することで、アジアの都市におけるスマート・ソリューションを実現するためのプロジェクト創出を目指します。

あわせて、本会議におけるスマートな都市開発の議論を、持続可能な開発目標（SDGs）やESG投資、社会的責任投資（SRI）のような国際的な議論につなげていきます。

会議の特徴（Unique Value Proposition）

- 都市のリーダーが自らの活動について発表し、他の都市・企業・国際機関等からも活動のヒントを得られる多対多の対話
- アジア地域におけるスマートな都市開発のパイロットプロジェクト創出を目指し、都市課題、ソリューション、ファイナンス等をセットで議論
- 知見の共創に加え、参加者の主体的なネットワーキングの場を提供

ASCC の主な取り組み



プログラム

【第1日】11月13日（火）

12:30- 参加受付

13:00-17:00 横浜でのスマートシティ開発の現地視察

- **Aコース** 横浜市新市庁舎

2020年に完成予定の環境に最大限配慮した低炭素型の市庁舎

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kanri/newtyosya/kensetu-info/kensetsu-info.html>



- **Bコース** 水・環境ソリューションハブ

横浜市北部に位置する廃水処理プラントと汚泥処理プラント

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/gesui/centerinfo/02wtc/>
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/gesui/centerinfo/12src/>



- **Cコース** 廃棄物からエネルギーへ -金沢焼却工場-

<http://www.city.yokohama.lg.jp/shigen/sub-soshiki/kojo/kana-zawak/>



18:00-20:00 カクテル・レセプション（主催：世界銀行）

【第2日】11月14日（水）

8:30-

参加受付

9:15-9:45

イントロダクション

- 分科会に先立ち、会議のねらい等を共有します。

10:00-12:30

分科会1（4つの分科会を同時開催）

- **コンセプトと目的**

新たなテクノロジーは、都市における市民サービスを静かに、そして根本的に変化させつつあります。また、それはサービスの提供方法にとどまらず、根底にある経済活動やファイナンスのあり方も大きく変えてしまうほどです。2050年の世界予測によると、人口は97億人になり、その内の60億人は中間所得層であり、都市人口は増加が顕著になると推定されています。世界経済は、2-3倍に成長する見込みであり、そのような成長の大半は、現在、開発途上国で生じています。革新的技術は、急激な成長に伴うインフラの不足やサービスの停滞、古いモデルからの脱却に悩む都市に対して明るい展望をもたらします。世界の都市が、世界で起こっている革新的イニシアチブを共有するために集まり、包括的かつ強靱で持続可能な都市を創出するために、革新的技術をどのように活用できるかを提示します。

- **分科会の構成**

これらのセッションは、開発途上国の意思決定者らとソリューション提供者らのマッチングを促進する目的としています。都市の代表者はモデレーターと共に特定の開発課題を発表し、国内外からのソリューション提供者（企業、学術機関など）が、技術や製品、能力開発支援など、課題に対処するためのソリューションを提案します。

- **テーマ1：上下水道と廃棄物**

テクノロジーは、上下水道、公衆衛生、一般廃棄物管理の業務、特に運営管理、モニタリングなどに関するサービス提供の効率性を確保するという点で、重要な役割を担っています。

#キーワード：水供給、無収水（NRW）、排水、下水、一般廃棄物管理、水（上下水道）と廃棄物の相互作用

- **テーマ2：交通**

発展途上国は依然として輸送インフラが大きく遅れていますが、自動車による輸送が急速に拡大する可能性があります。その中で、汚染の低減や省エネルギー、渋滞の削減に加え、交通安全の向上と経済成長の促進につながる、マルチモーダル戦略が採用される可能性もあります。

#キーワード：情報通信、IoT、コネクティビティ、公共交通

- **テーマ3：エネルギー効率**

省エネルギーは、日本におけるスマートシティの取組の中核になっています。最近の民間主導のイニシアチブにはどのようなものがあるのでしょうか。

#キーワード：省エネルギー、HEMS/BEMS

- **テーマ4：災害レジリエンス**

危険の正確な予測、モニタリング、報告は、効果的な防災に向けたスマートで迅速な意志決定に重要です。自然災害による経済的・社会的損害を軽減する上で、テクノロジーはどのように役立つのでしょうか。

#キーワード：洪水リスク管理、河川管理、地震リスク管理

12:30-14:00 ネットワーキングランチ

14:00-16:30 分科会 2 (4つの分科会を同時開催)

➤ **テーマ5：スマートシティに向けた都市インフラの提供**

IoTなどのテクノロジーによって、膨大なデータ（構造化／非構造化データ）が生成されています。都市やそのステークホルダーが、データに裏付けられた都市計画や都市管理のために、こうしたデータポイントを利用するには、どうすればよいでしょうか。また、こうしたデータを、部門を超えて管理・共有する方法や、こうしたデータを市民へのサービス提供の改善につなげる方法について、議論を行います。

#キーワード：都市計画と都市管理、都市インフラ、空間データインフラ

➤ **テーマ6：土地開発におけるビッグデータ／オープンデータの活用**

都市化のペースや範囲に関するデータの改善は、インフラ開発や産業政策、環境計画、土地管理の向上につながる可能性があります。利用可能な膨大なデータを土地開発の向上に活用するには、どうすればよいでしょうか。

#キーワード：ビッグデータ、ゾーニング、ドローン、土地および地理空間

➤ **テーマ7：製造業と産業の革新**

新たなテクノロジーによって、ものづくりの在り方に変化が起きており、製造業の風景が塗り替えられつつあります。これによって発展途上国では産業化や労働生産性、雇用創出にどのような影響が生じ、またそこにはどのような機会があるのでしょうか。

#キーワード：エネルギー、AI、VR、機械学習

➤ **テーマ8：スマートテクノロジーを活用した市民参加**

スマートテクノロジー（インターネット、携帯電話、その他情報をデジタルで収集、保存、分析、共有するためのツール）が、世界各地で急速に普及しています。しかし「デジタル化の配当」、つまりこうしたテクノロジーの活用による幅広い開発上のメリットは、実現が遅れています。多くの場合、スマートテクノロジーによって成長の加速や機会の拡大、サービス提供の改善が見られるものの、その全体的な影響は不十分であり、配分にもばらつきがあります。スマートテクノロジーの時代において、どうすれば包摂的な開発を実現できるのでしょうか。

#キーワード：市民参加、eガバナンス、スマートデバイス

18:00-20:00 歓迎レセプション

【第3日】11月15日（木）

8:30- 参加受付

09:30-12:00 パネルディスカッション

● **セッション1：包括的な都市開発**

総合的な都市開発を促進するためにどのような組織が必要か、部分最適に陥ることなく全体最適を達成し、市民サービスを向上させるためにはどうすればよいのか。このセッションでは、前日の午前中の議論に基づいて、都市開発に関する包括的な議論を行います。

- **セッション2：革新的な技術**

このセッションでは、前日の午後の分科会の取りまとめを行いながら、今後の社会の枠組みを大きく変えるゲームチェンジング・テクノロジーとは何か、また、こうしたテクノロジーは都市開発にどのような影響をあたえるのかについて議論を行います。

#キーワード: AI, VR, 機会学習, ブロックチェーン, 電子/生体 ID, 電子決済

12:00-14:00	ネットワーキングランチ
-------------	-------------

14:00-17:00	全体会議
-------------	------

- **オープニングセッション**

日本政府または国際機関のリーダーたちによる基調講演を行います。

- **ラウンドテーブルセッション**

パネルディスカッション形式により、アジア各都市のリーダーや開発事業者等がスマートシティ開発に関する取組の発表を行い、スマートシティに関する議論の結果を参加者と共有します。

併催イベント

- **横浜インフォ・マーケット（11月14日10:00-16:00、11月15日9:30-14:00）**

新興国の都市課題解決への貢献と、横浜関連企業のビジネス機会創出を目的として、2017年に一般社団法人 YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE (YUSA) が設立されました。この横浜インフォ・マーケットでは、横浜市と YUSA が連携して、横浜市が持つ街づくりに関するノウハウに加えて、横浜の企業が持つ技術を紹介します。

また、都市課題へのソリューションを求める新興国都市や企業と、ソリューションを提供する日本企業の出会いの場を提供します。

【お問合せ】 YUSA (YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE) (TEL: 045-227-5506、MAIL: info@yusa.yokohama)

- **ビジネスフォーラム「企業と自治体が担う、SDGs で創る持続可能な都市」(11月14日10:30-12:30)**

日経 BP 社が事務局を務める日経 ESG 経営フォーラムは、「企業と自治体が担う、SDGs で創る持続可能な都市」をテーマとする「ビジネスフォーラム」を開催します。日経 ESG 経営フォーラムは、ESG 経営を提唱する企業など約 140 の会員からなる組織です。このビジネスフォーラムでは、世界銀行及びアジア開発銀行 (ADB) の幹部が登壇し、それぞれ、「『新国富』活用、企業・自治体への期待」、「ADB の SDGs への取組と日本企業への期待」について講演します。

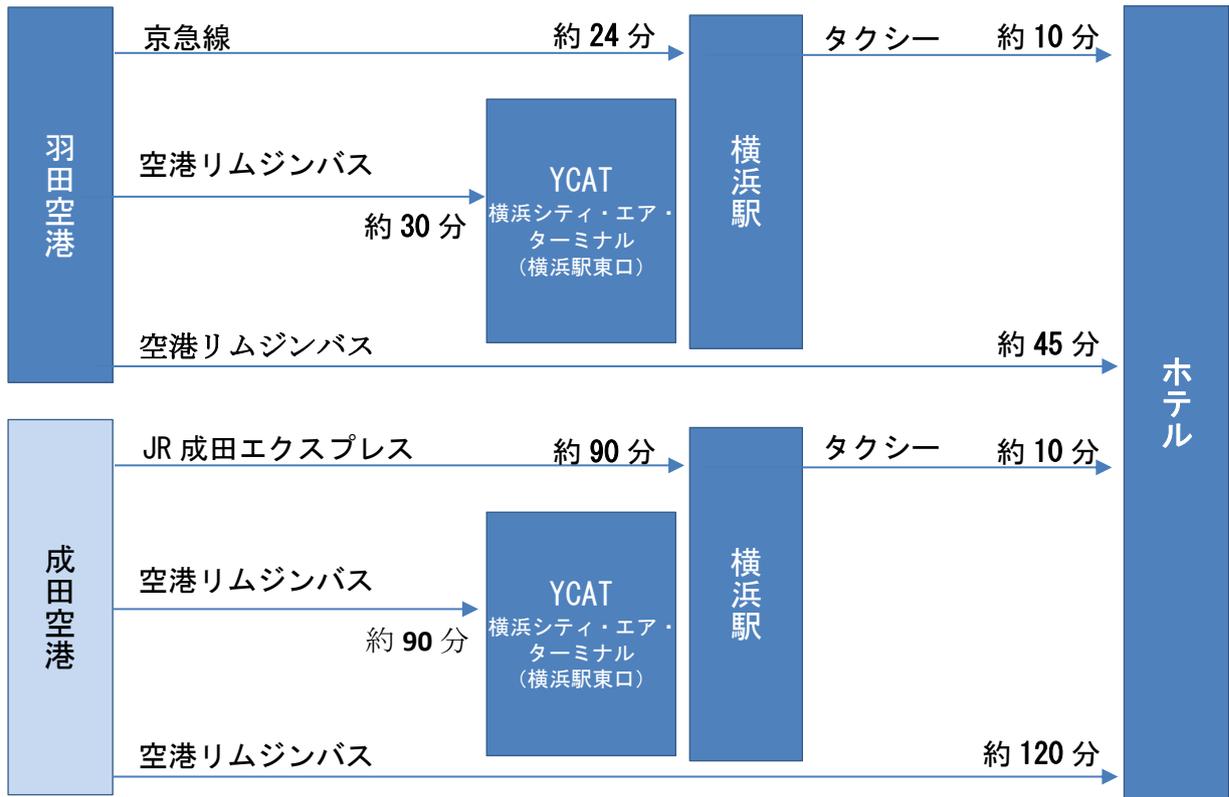
- **ユースイベント 2018 (11月14日14:00-16:30)**

優れた環境技術を持つ中小企業は、国際的な技術協力をを行ううえで非常に重要な存在です。このイベントでは、株式会社日新から資金協力を得て、日本の中小企業が海外展開をするうえでの課題や今後の展望について研究した成果について、横浜市立大学の学生が発表します。

【お問合せ】 横浜市立大学グローバル推進室 (TEL: 045-787-8945、MAIL: kokusai@yokohama-cu.ac.jp)

会場

ヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテル (横浜市西区みなとみらい1-1-1)



【問い合わせ先】

横浜市国際局国際協力課 アジア・スマートシティ会議担当
ki-asc@city.yokohama.jp TEL 045-671-4703

第6回アジア・スマートシティ会議報告書

【動画】 <https://youtu.be/qJN7m5jzi-w>

【報告書】 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/yport/pdf/6asc.reportj.pdf>

詳細については



第7回アジア・スマートシティ会議併催イベント
横浜インフォ・マーケットについて（ご案内）

横浜インフォ・マーケットは、横浜市と一般社団法人 YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE が連携して、横浜市が持つ街づくりに関するノウハウに加えて、横浜の企業が持つ技術を紹介するイベントです。また、都市課題へのソリューションを求める新興国都市や企業と、ソリューションを提供する日本企業の出会いの場を提供します。

この横浜インフォ・マーケットは、横浜市が主催する第7回アジア・スマートシティ会議の併催イベントとして開催します。

(1) 日時

11月14日（火）10：00-16：00、11月15日（水）9：30-14：00

(2) 場所

インターコンチネンタルホテル3階 ベイビュー

(3) 目的

- ① 横浜市が持つ、まちづくりのノウハウに加えて、横浜の企業が持つ技術を一体的に紹介
- ② 都市課題へのソリューションを求める新興国都市や企業と、ソリューションを提供する日本企業の出会いの場を提供
- ③ アジア・スマートシティ会議での出会いを活用した、継続的なネットワーキングのきっかけづくり

(4) イベント内容

① 横浜市のノウハウ及び企業の技術に関する展示

横浜市のノウハウ及び企業の技術に関する展示を一体的に行います。

- ・横浜市及び企業のノウハウを紹介するパネル等の展示
- ・世界銀行・アジア開発銀行の紹介など、市内企業のビジネスにつながる情報の提供

② 海外都市や企業によるプレゼンテーションの実施

イベント期間中、海外の都市や企業のプレゼンテーションを予定しています。発表者やスケジュールは別途 Web サイト等で案内いたします。

③ 参加者のネットワーキングの促進

このイベントでは、海外から参加する都市とのマッチングも予定しています。マッチングが成立した場合、会場内のミーティングエリアでの個別面談を予定しています。

【展示・プレゼンテーションの聴講・海外都市とのマッチングのお問い合わせ・申込先】

一般社団法人 YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE（横浜インフォ・マーケット事務局）

担当：保延（ほのべ） 電子メール：info@yusa.yokohama 電話：(045)227-5506

「企業と自治体が担う、SDG s で創る持続可能な都市」を開催！

日経 ESG 経営フォーラム アジア・スマートシティ会議併催イベント

日経 ESG 経営フォーラムは、11月14日（水）、横浜市でアジア・スマートシティ会議併催イベントのビジネスフォーラム「企業と自治体が担う、SDG s で創る持続可能な都市」を開催します。持続可能な都市づくりを考える上で、企業と自治体は重要な役割を担います。2030年を目標に国連が定めた持続可能な開発目標（SDG s）に向けて企業と自治体は何ができるのか。世界銀行、アジア開発銀行の幹部の方を迎え、国際的な金融機関の視点を交えながら、この問題を掘り下げます。同時に今年6月、「SDG s 未来都市」に選ばれた横浜市の幹部と SDG s を積極的に経営に取り入れている地元企業のトップを迎え、SDG s 実現に向けた自治体、企業からの取組みについてお話を伺います。国際的な金融機関、地方自治体、企業と、SDG s に関する取組みを多角的に理解できるまたとない機会です。是非、取材いただきますようお願いいたします。

- 1 日時：2018年11月14日（水）10:30～12:30（開場 10:15）
- 2 会場：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル3階 於：Monaco
（横浜市西区みなとみらい 1-1-1）
- 3 主催：日経 ESG 経営フォーラム
（フォーラムの詳細は <https://business.nikkeibp.co.jp/ESG/esg/>）
- 4 プログラム（プログラムは変更になる場合があります）

時間	内容
10:30～10:35	主催者挨拶 日経BP社 上席執行役員日経BP総研所長 望月 洋介
10:35～11:00	「『新国富』活用、企業・自治体への期待(仮)」 世界銀行幹部(人選中)
11:00～11:30	「ADBのSDGsへの取組と日本企業への期待(仮)」 アジア開発銀行持続可能な開発局長 Woonchong Um氏
11:30～12:00	「SDGs未来都市・横浜～環境を軸に、経済や文化芸術による新たな 価値・賑わいを創出し続ける都市・横浜(仮)」 横浜市温暖化対策統括本部環境未来都市推進担当部長 保坂 研志氏
12:00～12:30	「中小企業がSDGsに取り組む意義」 大川印刷代表取締役社長 大川 哲郎氏

取材申し込み方法：

取材を希望される際は、11月9日（金）までに、以下のEメールアドレスあてに、
① 貴社名 ②代表者お名前 ③人数 ④撮影の種類（例：動画撮影、静止画撮影）
についてご連絡ください。

取材申し込み Eメールアドレス：esgfn@nikkeibp.co.jp

第7回アジア・スマートシティ会議 併催イベント Yokohama Youth Event 2018参加者募集中!

横浜市で開催される第7回アジア・スマートシティ会議の併催イベントとして、次世代育成をテーマとしたYokohama Youth Event 2018を開催します。

横浜市立大学の学生が、市内のグローバル企業の事例を分析し、若者の視点より問題解決に向けた提言を英語で行い、アジア・スマートシティ会議に参加しているアジア開発銀行（ADB）等の専門家と議論します。あわせて、国際機関等におけるキャリア形成をテーマにした講演を予定しています。このイベントに参加する方を募集します。



日 時：2018年11月14日（水） 14：00～16：30（13：30開場）
場 所：ヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテル 3F ボールルーム「モナコ」
（神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1）

言 語：英語

参加応募：下記URL、あるいは、右のQRコードリンク先よりお申し込み下さい。

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/global/education/youth2018.html>

締 切：11月2日（金） 17：00

定 員：70名程度（応募者多数の場合は、先着順）

問合せ先：横浜市立大学グローバル推進室
TEL:045-787-8945
MAIL:kokusai@yokohama-cu.ac.jp



プログラム：

13:30	開場
14:00-14:05	開会挨拶
14:05-14:10	協賛企業（株式会社日新）挨拶
14:10-14:35	テーマ1：「学生による調査発表とディスカッション」 中小企業（SME）のポテンシャルを支えるPPP（Public-Private Partnership） ～横浜市の事例：Y-PORT、YUSAの貢献と挑戦～
14:35-15:20	専門家を交えたオープンディスカッション
15:20-15:30	休憩
15:30-16:00	テーマ2：「国際機関等におけるキャリア形成について」 講演（アジア開発銀行（ADB） 専門家（予定））
16:00-16:20	専門家を交えたオープンディスカッション
16:20-16:30	写真撮影、閉会

主 催：横浜市立大学、横浜市

協賛企業：

